

.12 Higengo International Symposium

.12.1 第一回 HIS

閉会の言葉

はい、えっと、では閉会になりまして、今回第一回非言語国際シンポジウム、初の開催で大変好評で、有意義な議論になったと思います。概念論文という人類の悲願を達成するために、私達は動いておりますが、そのために幾つもの犠牲を払っていくことだと思います。特に ATM や佐々木など、若干の被害は被る方はいらっしゃるでしょう。我々はそれに屈してはいけません。必ずや、概念論文を完成させ、次の時代の概念を切り開くためにがんばりましょう。現在世界では、同時株安やテロの横行など、長く険しい道が待っています。環境問題、宇宙開発の停滞、これらの問題に対し、非言語大学の概念が、新たな一步を踏み出す、きっかけとなることを願っています。最近では、日本でも政権交代が行われておらず、非常に概念が停滞し、うーん、しかし、えーっと、概念論文の存在がこの日本の停滞という概念が明るいものになることを祈っています。最新の統計では、ノーベル賞受賞者の約 8 割が、我々の非言語大学の、概念に賛同を示しているというデータがありますが、我々がノーベル賞をとることも遠くないでしょう。そもそもノーベル賞という概念は、あくまで、ノーベル博士がどうにかして作った賞に過ぎず、非言語賞という賞を、あの、非言語概念賞、こういったものを作って、より概念を高めた方に授与したいです。例えば、非言語平和賞、非言語微分積分賞、また、非言語長編小説賞、非言語ラグビー賞、非言語エグザイル賞、オガワ教授が受賞予定でございます。これらの賞を、取ったオガワ教授は、これからも概念論文のために尽くされ、最終的には、彼自身が新たな概念となることを祈っています。要するに、世界平和を目指しましょう。以上、私の閉会の挨拶と変えさせていただきます。

平成 30 年 10 月 14 日 非言語大学清掃員 又吉康平



図.17: 第 1 回 HIS のポスター